

辞令その2

2021.3.17

職場の人間関係の調整に意を用い、個を生かすようにする。職員を平等に扱うこと。特に事務職員、用務員、給食関係職員を意欲的にさせられれば、50%はうまくいくものである。地域に溶け込むこと。地域の行事には、つとめて参加しコミュニケーションを図ることは、学校への理解、協力が得られるばかりでなく、苦情も少なくなるものである。

常に中立的な態度を保持し一方にかたよらないこと。教頭のみ参加は信頼を失うことになる。校長住宅にはできるだけ泊まれ。地域の人にはできるだけ声をかけよ。転退出の際には、近所には挨拶として、手ぬぐいでも配る心配りを。

前任校長の悪口、批評はしないこと。残っている職員には不快に聞こえるもの。その時点で器がわかってしまい、失望されるのがおちである。児童や生徒の氏名はできるかぎり覚えること。管理職者によるなによりの生徒指導になる。校長の朝礼や訓話では、1週間の熟慮推敲を重ねること。校長は朝礼で勝負する。他人の話の流用では説得力に欠けるもの。自分の言葉に置き換えて話すこと。

教職員への指導は、論拠を持って、理論的にわかりやすくすること。指導案を手にとって、直接指導できる校長（副校長・教頭）であること。「計画は細心・緻密に、執行・運営は大胆に」を心がけること。話題を豊富にもつこと。今まで以上に研修・研鑽を積むこと。尊敬される校長（副校長・教頭）より、慕われる校長（副校長・教頭）を目指すこと。「経師（けいし）は遇い易く、人師（じんし）は遇い難し」ものを教えるだけの師は多くいるが、道を教え、人間を深くしてくれる師には、なかなか遇えないものである。

何と言っても健康第一。健康を保つことは、社会に対する義務である。毎日「笑顔で元気よく」「元気なおはようございます」の挨拶から1日が始まる。

以上、管理職向けの内容かもしれないが、教員の方だけでなく、組織で働く方にも役に立つことがたくさんあると思う。

このような資料に毎日目を通してはいるわけではない。だが、たまに読み返してみると、自分自身の“定期点検”ができる。意識していなくてもできていること、意識してできていること、意識はしていたが、いつの間にかできなくなったこと、全く意識していなかったことなどに分けられる。

定期点検により、今の自分を省みることが大切である。今の自分に何が足りないかを確かめる。それは実行可能なことなのかを判断する。そして、意識してやっていく。今年よりも来年、今年よりも来月、今週よりも来週、今日よりも明日と進歩していかなければならない。成長し続ける人でなければならない。

「辞令」は重い。文言は短い。それだけにかえって重みを感じる。そこからくる責任も重い。やりがいや使命感を感じる。武者震いはしないが、身の引き締まる思いである。一枚の辞令には、数多の先達からの教えがあることを改めて思い知らされた。